

5. 児童・ヤングアダルトへのサービスの変遷

(1) 第2回子どもの本フォーラム

①開催に至るまで

昭和63(1988)年に行った「子どもの本フォーラム／子ども・本—その豊かなかわりを求めて—」(第1回フォーラム)から「中高生の読書離れ」や「学校図書館の充実」といった課題が浮かび上がってきた。これを受けて更に踏み込んだ研究分析・意見交換によって、図書館においてのみならず広く読書活動について考える機会を持つという趣旨で、平成5(1994)年11月6日・7日に「第2回子どもの本フォーラム「子どもの生活と読書—児童・中高生世代の読書環境を考える—」を開催した。この2回目のフォーラムでは、前述の課題に基づき、特に中高生世代、いわゆるヤングアダルト(以下YA)層の読書を大きなテーマとしてとりあげた。

②準備

第2回フォーラムの準備は開催年月の約1年半前、平成4(1992)年4月から開始した。まず、テーマの中心となるYA層の読書傾向ならびに生活の動向と実態を把握するために、市内在住の10歳から18歳までの男女を対象としたアンケートを図書館・学校・公民館で行った。また、より広範囲にサンプルを収集するために住民基本台帳からの無作為抽出法を用いて専門機関による業者委託アンケートも実施した。当市の図書館においてこのテーマについてこれほどの規模と重層さで行われた調査はかつて無く、非常に貴重なデータとなった。

アンケート調査の結果、対象となったYA層の多くは現状の生活に取り立てて大きな不満はなく、余暇にはテレビやビデオやCD等の視聴覚メディアが好まれ、読書についてはマンガや雑誌、ライトノベルのはしりであった当時のYAに好まれたコバルト文庫や講談社X文庫に一定の肯定的なイメージを持ちつつも、時間的・経済的な制約もあり、それ以上はやや特別なものとしてあまり身近には感じら

れていないということがうかがえた。

平成4(1992)年度は、計4回の大規模アンケートの集計等に準備委員の労力の大半がつかぎ込まれた。その成果として作成した資料が、4種のアンケートを分析した「資料解題とアンケート調査概要報告」と枚方市立図書館のこれまでの児童奉仕を検証した「枚方市立図書館の子どもへのサービス」の2冊子である。



第2回子どもの本フォーラム発行物

平成5(1993)年度は各分館から2名の委員を増員し、前年度の約2倍の人員で記念講演やパネルディスカッションなどの具体化に向けて準備を続けた。

③フォーラム当日

記念講演：子どもの読書環境を論ずるためには、視聴覚メディアの影響など子どもを取り巻く多様な情報化社会を立体的・複眼的に見ることが求められる。記念講演には、単に本や読書のみならず、活字以外のメディアや青少年特有の心理と動向を語る事ができる講師をという観点から森毅氏(京都大学名誉教授)に決定した。

森毅氏の講演「なんで本読むねん？」は自身の読書姿勢を起点に、書評論にも触れる幅広いものとなった。また、来場者との質疑応答も興味深い内容のものがあった。

実践報告会：三苫正勝枚方図書館長の基調報告の後の実践報告会では①YAサービス先進館として、図書館は必ずしも本好きだけが集うところではなく、あまり本好きでない人達にも居心地の良い場所だと

思わせること、また YA 層の意見・要望を積極的にとりあげることが大事とする埼玉県朝霞市立図書館の取り組みと、②学校図書館現場からとして、積極的に生徒のアイデアを取り入れ生徒とともに魅力ある図書館作りを進めている大阪府立長尾高校の実践が報告された。

パネルディスカッション：YA 層に一定影響力のあるメディアの現状を眺みつつ、その上で読書の必要性を議論できればという考えを念頭に、活発で生産的な討論となるように塩見昇氏(大阪教育大学教授)を司会に、子ども文庫関係者、教育評論家、マンガ雑誌編集長、NHK チーフディレクター、大阪音楽大学教授といったユニークな顔ぶれのパネリスト5名を決定した。

当日のパネルディスカッションでは、若者文化の一翼に携わってきた個性的な考えを持ったパネリスト達によって率直かつ刺激的な意見が交わされ、討論は読書離れから学校問題、人間論にまで及んだ。そして、情報量の膨大な現代においては、当然のことながら活字だけが子どもにとって突出した重要メディアと位置づけられることはないにしても、やはり読書は子どもの心の成長に決して欠かせないものであり、同時に読書環境を整えるうえで公共図書館と学校図書館の役割が重要であることも再認識された。2日間のフォーラム開催期間中は、市民、文庫関係者、教職員や市内外の図書館行政に関係・関心ある方々約2,721人(大人1,499人子ども1,222人)もの参加を得た。

④フォーラム後の YA サービス

第2回フォーラムから既に20年余の年月を経た今、平成25(2013)年度から枚方市立図書館では、児童サービス委員会が“中高生向けおすすめ本リスト”を作り、それに合わせて市内各図書館が書架にティーンズコーナー(YA コーナー)を設け、平成26(2014)年度より市内3中学校へ司書を派遣するなどYAへの読書支援活動ともなる学校図書館支援をようやく始動させた。

(2) 児童サービス関係委員会について

①児童サービス関係委員会の変遷

枚方市立図書館では、分館の増加に伴い、昭和59(1984)年、各部門代表からなる奉仕活動委員会を設け、児童関係では、「児童図書選択小委員会」と「児童奉仕連絡会」が設置された。平成7(1995)年、両者は「児童奉仕委員会」に一本化され、平成22(2010)年より「児童サービス委員会」として児童サービス関係の全館的な活動を行っている。

②児童図書選択小委員会

児童図書選択小委員会は、児童図書の情報収集や選択について意見交換等を行う目的で昭和55(1980)年度から活動していた。

毎月、手書きの見計り図書一覧に4段階の評価を記入した「評価表」をまとめて情報を共有し、評価の高い本はリストにまとめ、基本図書として利用できるようにした。

また、分担収集した新聞書評や、全館選書という枠での外国語図書や高額図書の検討を参考にして、枚方市立図書館としての児童書の充実に取り組んだ。その後の、全館集中選書における児童選書会議へとつながった。

③児童奉仕連絡会から児童奉仕委員会

児童奉仕連絡会は、全館的な行事、情報交換、児童に係わる検討課題への対応などに取り組み、児童奉仕委員会に引き継がれた。

読書週間には、講演会や市内人形劇団による人形劇、子どもの本の交換会などを複数館で同時期に開催することで宣伝効果を高めた。

また、職員が作成した行事用作品について、一覧表を作成すると共に著作権許諾申請を行うことで、平成13(2001)年からは、団体を対象に貸出を行うようになった。

学校に対しては、対象を小学校に絞って取り組んだ。小学校の学校図書部会主催の会合に参加、新1年生と全教員向けの図書館利用案内チラシの配布等でPRに努めた。団体貸出やおはなし会について

は、あり方の模索が続けられ、平成 22(2010)年に、学校図書館を窓口として対応する新要領を制定し、活用されている。

リーフレット「あかちゃんといっしょに はじめてのえほん」の発行や、集中選書に使用している「児童図書見計らい表」を基に評価の高い本を一般向けにまとめた「おすすめの子どもの本」リストの作成も手がけた。

「子ども読書年」(平成 12(2000)年)、「本との出会い事業」(平成 14(2002)年)、「市制 60 周年記念事業」(平成 19(2007)年)など、全館で様々な行事に取り組んだ。

④児童サービス委員会

平成 22(2010)年に名称変更され、「中央図書館開館 5 周年記念事業」からスタートした。子どもの読書活動に関するボランティア団体との連携を深める活動や、YA 向けサービスにも積極的に取り組んでいる。

(3)小中学校との連携

①図書館教育懇談会

小学校へのサービスは、図書館見学の受け入れ、訪問おはなし会、団体貸出、新 1 年生向け利用案内配布などを行ってきた。平成 5(1993)年には初めて小学校図書部会との交流会を行っている。平成 10(1998)年頃から毎年開催されるようになり、以来、学校図書部会との交流会(小学校図書館教育懇談会、以下懇談会)は 12 年ほど続いた。内容は、図書館サービス案内、絵本の読み聞かせやブックトークの実演、おはなしの小道具の製作のほか、市内 5 ブロックに分かれての意見交流を行ってきた。

学校側から図書館への意見は、図書の廃棄や管理、購入の仕方、図書館のレイアウト、読み聞かせボランティアの受け入れについて、図書の搬送、弁償などについて聞きたいというものが多かった。

回を重ねるうちに内容がマンネリ化して、毎年開催する意味があるのか、実演をする必要があるのか、情報交換しても異動等で積み重ねがない等、懇談会

の意義について何度も検討してきた。しかし、学校側から実演や本の紹介などの希望があったため、平成 21(2009)年度まで続けた。

中学校図書部会との懇談会も開催したが数回のみで、毎年開催とはならなかった。

②学校への支援から学校図書館との連携へ

平成 14(2002)年に新学習指導要領が出来てから、団体貸出の利用が増加してきた。職業体験学習(中学 2 年)の受け入れも始まった。

平成 21 年度まで小学校へのサービスは、学校から依頼されれば学級単位で団体貸出を行い、おはなし会も希望のあるところに訪問してきた。団体貸出は、ほとんど学級文庫として利用されていた。近隣の図書館から職員がおはなし会に出向くことで、本の楽しさを知ってもらい、地域の図書館を PR することにもなった。

平成 22(2010)年度に学校との連携のあり方を大幅に見直し、平成 23(2011)年度からは、図書館見学・学校訪問・団体貸出について新しい体制で始めることとした。それまで、学級担任が主に窓口になってそれぞれのクラスに団体貸出などを行ってきたが、窓口を図書館担当教諭に一本化して学校図書館へのサービスを行うこととした。具体的には、図書館見学は 1 校につき 1 回、学校訪問おはなし会は小学校 2 年生のみ対象で、年 1 回、団体貸出は 2 系統に分け、読書支援用(学校単位)、調べ学習用(学年単位)とした。毎年、各小中学校に案内をして希望を募る。読書支援用図書は、中央図書館で 100 冊単位のセットを作り、児童数の 2 分の 1 を上限に貸出している。調べ学習用団体貸出は、環境問題や修学旅行の事前学習などのテーマにあわせて、学年単位で近隣の図書館から貸出している。

平成 26(2014)年 6 月からは、市内の 3 中学校へ図書館から職員を派遣し、学校司書として配置している。司書教諭と協力して、学校図書館の管理・運営や、図書館を活用した授業等のサポートなどを行う。2 年間で成果を検証し、将来的には全中学校に学校司書を配置する計画である。

また、長年学校側から希望が出ていた配本サービスを開始し、巡回希望のあった市内の小中学校へ、2ヶ月に1度の頻度で読書支援用図書セットを配本している。

(4) 「枚方市子ども読書活動推進計画」について

「子ども読書活動推進計画」は「子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13(2001)年(法律第154号)」に基づく法定計画である。市町村においては努力規定であるものの、枚方市では中央図書館開館の翌年にあたる平成18(2006)年6月に第1次の「枚方市子ども読書活動推進計画」を策定した。平成17年(2005)年に「枚方市新子ども育成計画」が策定されたこともあり、図書館だけでなく、家庭や地域、保育所(園)や幼稚園、学校など、あらゆる場で「子ども読書活動推進」に取り組む計画となった。

第1次の特長としては、乳幼児に対する読書活動推進が挙げられる。

平成18(2006)年度に中央図書館が乳幼児向けおすすめ絵本リスト「あかちゃんといっしょに〜はじめてのえほん」を発行し、保健センターを通じて4か月児健診時にすべての受診者に手渡してきた。

平成19(2007)年度には子育て支援室による「絵本で子育て」をキャッチフレーズにした「ふれあいルーム」が図書館や図書館併設施設で開始され、平成27(2015)年現在も継続されている。

平成21(2009)年度には、1歳の誕生日に絵本をプレゼントする「枚方版ブックスタート」を子育て支援室が開始し、図書館においても以前からあった乳幼児向けの定例おはなし会の拡充に努めてきた。

「あかちゃんに絵本を読んで意味がわかるのか」という声もよく聞くが、よい絵本のなかには、やさしくあたたかい絵とリズムのある言葉がいっぱい詰まっている。あかちゃん絵本の読み聞かせの時間は、あかちゃんの心と言葉を育み、大人にとっても楽しい癒しのひとときとなって、あかちゃんと大人をむすぶコミュニケーションツールともなっている。

「第2次枚方市子ども読書活動推進計画」につい

ては、平成23(2011)年7月策定「第2次枚方市立図書館グランドビジョン」を受けて、教育長を委員長とする庁内委員会を設置し、平成24(2012)年6月に策定した。グランドビジョンで「乳幼児からヤングアダルト層までの子どもが読書に親しめる環境づくりの推進を重点的に進め、市立図書館サービスの特色のひとつにする」と謳っており、「第2次枚方市子ども読書活動推進計画」では必然的に「ヤングアダルト層への読書活動推進」が大きな特長となった。

ヤングアダルト(以下 YA)とは主に中学生から高校生を指す。YA層の利用は近年特に少なく、YAサービスは未知の分野であった。それだけに不安も気負いも大きかった。策定にあたって、小学4年生から中学3年生までを対象とした読書アンケートを実施したところ、学年が上がるにつれ、読書離れが進む傾向が見られた。受験やクラブ活動で忙しい YA層へ働きかけるには、学校図書館の存在抜きには考えられない。学校図書館の整備や学校と市立図書館とのさらなる連携が不可欠であることを計画に明記した。

また、市立図書館においても、YA層の読書環境整備の推進を図ることとした。計画に沿って、平成24(2012)年度から YA向けおすすめ本リストを毎年発行。市内全館にティーンズ・コーナーを設置し、YA層への働きかけに努めてきた。また、おすすめ本リストの作家によるワークショップ、中学校の授業と連携した「調べ学習コンクール」などを開催してきた。

(5) 乳幼児、小学生、中学生、高校生それぞれに対しての活動

①乳幼児へのサービス

枚方市立図書館では、開館当初から幼児から小学生を対象にしたおはなし会を開催してきたが、平成14(2002)年から始まった学校週五日制などの影響により、特に小学生の平日利用が減少し、就学前の低年齢の子どもの参加が目立つようになってきた。一方、平成4(1992)年頃よりイギリスでスタートし

たブックスタートは、平成12(2000)年の子ども読書年に紹介されたことで、日本でも広まりをみせていた。このような状況で、赤ちゃん向けのおはなし会の要望もきかれるようになり、いくつかの図書館・分室で赤ちゃんに限定したおはなし会が手探りで始まった。職員が自主的にわらべ歌や手あそびの講習を受けたり、図書館でも研修を行ったりして、赤ちゃん向けおはなし会を開催する図書館を少しずつ増やしていった。

平成18(2006)年策定の「枚方市第1次子ども読書活動推進計画」を踏まえて、ブックスタートについて枚方市としてどのように取り組むのかを議論し関係課との調整がなされた結果、枚方版ブックスタート事業は子育て支援室が主体となることになった。そこで図書館では、職員研修、0～2歳児向けのブックリスト「あかちゃんといっしょに～はじめてのえほん」の作成と紹介された本の常設コーナーを設置した。ブックリストを館内に置き赤ちゃん連れの利用者に配布したり、乳幼児健康相談の会場に置いてもらって本と共にアピールしたりしている。



また、子育て支援室による乳幼児と保護者を対象とした交流の場「ふれあいルーム」が、図書館の集会室や図書館と併設の生涯学習市民センターなどで実施され、多くの親子の参加がある。「絵本で子育て」をキャッチフレーズに、乳幼児向けの図書への関心が高まっている。

②幼児から小学生へのサービス

平成に入ってから「子ども」の中では幼児から小学生の来館利用が多い。各館・分室での職員によるおはなし会や工作、人形劇などの行事を長年実施

してきた。図書館全体の行事としては、外部講師に依頼した科学遊びについての講演会や音楽会、マジック、人形劇など、秋の「読書週間」(10月27日～11月9日)の時期に合わせて毎年実施してきた。春の「子どもの読書週間」(4月27日～5月10日)も近年定着してきた。平成12(2000)年には「子ども読書年」にちなみ、児童文学作家による講演会や絵本画家の原画展を行い、親子で参加できる行事として好評を得た。

中央図書館開館後の新たな取り組みとして、平成19(2007)年からブックリスト「おすすめの子どもの本」を作成・配布したことがあげられる。子どもの本にかかわる大人に読んでもらえるよう発行したが、近年カラー印刷にしたことで子どもにも手に取られやすくなった。以後は毎年職員が1年を通しておすすめの本を選書し、毎年発行している。



「おすすめの子どもの本」2015年版

平成21(2009)年には枚方市立図書館手刷りの「読書ノート」を配布し、想定していた小学生はもちろん大人からも好評を得た。

同年行なわれた「えほんぎょうさんならべ展」は面展台(ダンボールを材料にした手作り簡易書架)を利用して表紙を見せ、ずらりと並んだ絵本の展示が、本が手に取りやすいと好評だった。



③中学生から高校生へのサービス

昭和 49(1974)年に香里ヶ丘図書館(当時分室)で始まった「中学生読書会」は、後に「中高生読書会」として、菅原図書館、御殿山図書館などに広がった。学校週五日制の開始や様々なメディアの登場など子どもを取り巻く状況がめまぐるしく変化する中、一時期には5つほどあった中高生読書会も参加する子どもの減少が見られ、平成 27(2015))年時点で活動しているのは香里ヶ丘図書館中高生読書会だけになっている。

中学校では新たなカリキュラムで総合的な学習の時間が取り入れられたことで、近年、職場体験学習が中学 2 年生で行なわれている。学校からの依頼で、中学生に図書館を一職場として実習体験してもらったり、図書館職員が学校で職業講話を行なうなど、ささやかではあるが中学生に図書館を知ってもらう機会を提供している状況である。

平成 24(2012)年に策定した「第 2 次枚方市子ども読書活動推進計画」の重点項目として「ヤングアダルト層の利用促進」が上げられたことでヤングアダルト(YA)対象の資料を積極的に収集し始め、YA コーナーを各館で設置した。これと並行して、中学生向けのブックリストを発行した。翌年には高校生向けのブックリストも発行し、中高生向けへの具体的な取り組みが進んだ。以降は主に小学生までを対象とした「おすすめの子どもの本」とは別に YA 対象のブックリストを毎年発行している。YA 向けの行事としては平成 24 年度から始めた中学生対象の「調べ学習コンクール」が定着し始めている。同年、クラブ帰りの YA にも来館できるように、中央図書館 2 階こどものフロアを平日 17 時閉館から 19 時閉館に延長した。

平成 25(2013)年度には子ども夢基金を利用した事業として主に夏休み期間を利用して【「いのち」のメッセージ～中高生の課外授業～楽しく心豊かに生きるために】と題した中高生向けの講演会とワークショップを実施した。7 月に今西乃子(ノンフィクション作家)さんと「犬・猫の殺処分について考える」、8 月に大西暢夫(写真家)さんと「生きるこ

と 食べること」、12 月立岩真也(社会学者)さんと「人生“勝ち組”“負け組”なんてない」というテーマで、小人数ながら難しいテーマに真摯に向き合うようすがみられた。また次年度入学の全中学 1 年生向けに利用案内を配布している。



「おすすめの本～中学生編～いのちつながる」2012 年



「おすすめの本 高校生編 絆～家族、友達、そして恋」



「おすすめの本 中学・高校生のみなさんへ」2014 年

(6) 読み聞かせボランティアについて

読み聞かせボランティアは、枚方市内の各地域で、絵本等の読み聞かせや、ストーリーテリング、また、最近では「えほんのひろば」(注 1)等を通して、子

ども達への読書活動推進を行っている。その活動は、文庫活動、地域の集まりや図書館でのおはなし会、幼稚園・保育所・小学校での読み聞かせなど、広範囲にわたっている。その担い手も、読み聞かせのグループ、または小学校のPTA活動など多岐にわたっている。

読み聞かせボランティアは、枚方市立図書館創立当初は、文庫や図書館での活動が主であったが、平成18(2006)年6月に『枚方市子ども読書活動推進計画』が策定されると、小・中学校で以前にも増して読書推進の取組みがなされ、始業前の「朝の読書運動」や授業における図書の時間などで、ボランティアによる絵本の読み聞かせ等が積極的に行われるようになった。

平成17(2005)年9月開催の小学校図書部会と枚方市立図書館との交流会のために事前実施した『小学校における「おはなしボランティア」(注2)受入れ調査アンケート集計』では、枚方市立小学校45校中25校と市内小学校の約半数が、「おはなしボランティア」を受け入れている。またその25校での実施内容は、ストーリーテリングのみが4校、読み聞かせのみが11校、読み聞かせとストーリーテリング実施が8校、ブックトーク実施が3校、パネルシアターやエプロンシアターの実施が3校だった。また、その実施時間帯は、授業時間が17校、朝の読書時間が9校、20分休みや昼休みが1校、土曜日の「ふれ愛・フリー・スクエア」(注3)で実施されているのが2校であった。

近年ではこれに加え、小学校で「えほんのひろば」を開催する読み聞かせボランティアが出てきており、年々その数は増えつつある。(注4)こうした活動は、図書館だけでは果たせない子どもへの読書推進の裾野をより一層広げている。

一方、図書館は、読み聞かせボランティアへの支援を次のように実施している。

①本の団体貸出し

②活動の場の提供(図書館集会室の使用許可)

③ボランティア交流会(平成19(2007)年度より毎年実施)

④ボランティア養成講座(絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング等)

⑤読み聞かせ等のスキルアップ研修・講演会

⑥「ひらかた 読書ボランティアのなつやすみおはなし会」を読み聞かせグループの活動紹介とPRのため平成20(2008)年度より枚方市立図書館主催で開催

⑦「えほんのひろば」用絵本のセットと面展台の貸出し(平成20(2008)年度より)

⑧大型紙芝居の貸出し

⑨行事用作品の貸出し

⑩子ども読書活動等推進団体としての登録集会室使用許諾、研修会等へのお知らせ、読み聞かせボランティア希望者への団体PR(紹介可の団体のみ)

⑩新刊本の情報提供(おすすめ本リスト作成・配布。第1回は、平成19(2007)年度新刊分より選定し平成20(2008)年度に作成・配布。その後毎年実施。)

⑪読み聞かせに適した本の相談アドバイスの実施。

*注1. 絵本あれこれ研究家の加藤啓子氏が実践する新しい絵本の楽しみ方。「ダンボール製面展台」等を使って300冊程度の絵本の表紙を見せながら展示し、その絵本をお互い一緒に読み合う「ひろば読み」など、楽しみながら本に親しむ活動。

*注2. 「おはなしボランティア」は読み聞かせボランティア。

*注3. 「ふれ愛・フリー・スクエア」各学区で休日(土曜日)に小学校を活用し、地域のボランティアにより運営されている事業。

*注4. 枚方市立図書館では平成19(2007)年度に面展台を作成し、この後「ぎょうさん ならべ展」を平成22(2010)年まで4回開催。平成22(2010)年10月、読み聞かせ活動ボランティア支援事業『「えほんのひろば」ボランティア養成講座』を開催。この後、読み聞かせボランティアによる、「えほんのひろば」の小学校開催が広がる。

*注5. 当初のタイトルは「ひらかた 絵本とおはなし じゅずつなぎ」だったが、平成25(2013)年度より現タイトルに変更